

## 企業ニュース 東洋合成工業

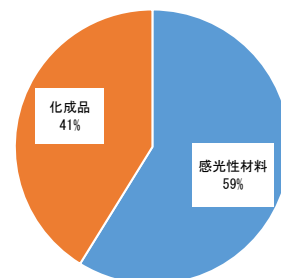
(東証JASDAQ : 4970) <http://www.toyogosei.co.jp/>

作成者: 兵藤 三郎

### 感光性材料メーカー

1954年、医薬品用化学製品の製造並びに精製を目的として、日本アセチレン化学工業を設立。1961年に現在の商号に変更した。1981年、現在の中核事業である感光性材料の製造を開始した。同事業は半導体やディスプレイの製造に用いられるフォトレジストのキーマテリアルである感光材などを製造している。フォトレジストは基盤(ウェーハなど)に均一に塗られ、露光装置によりマスクの回路図が化学反応で転写される。化成品事業ではレジストの主原料となる高純度溶剤を製造している。感光性材料や高純度溶剤はレジストメーカー(JSR、東応化など)に納入され、レジスト製品として半導体メーカーなどに供給される。感光材需要が高まる中、2020年10月に第4感光材工場が竣工し、22.3期から生産が開始された。化成品事業では溶剤の他、香料材料、ロジスティックなどを展開している。

◇21.3期売上収益構成比



(出所) 東洋合成工業資料より  
CAM作成

### 先端半導体への投資拡大が業績をけん引

21.3期の業績は、売上高が272億円、前期比11%増、営業利益が29億円、同35%増。半導体・電子材料の旺盛な需要及び先端半導体への投資拡大により増収増益、売上高、利益項目すべてで過去最高を更新した。生産能力増強に伴う労務費や償却費などの先行費用発生はあったが、高付加価値製品の拡販などで吸収した。2月5日に上方修正した会社計画をさらに、売上高で12億円、営業利益で3億円上振れて着地した。

22.3期業績の会社計画は、売上高が300億円、営業利益が36億円、同21%増(今期より収益認識に関する会計基準を適用するため売上高の増減率の記載はしていない。旧会計基準換算では15%増収)。2021年の半導体市場は、前年比8%増の成長を見込む。香料材料などの需要も堅調推移を予想、足元はロジスティック事業も回復している模様。一方、需要拡大に向け費用は前期比14億円増加、内下半期は上期比約5億円の増加を織り込んだ。現段階での下期に対するリスクなどを加味した保守的な計画の模様。

### [株価動向・投資判断]

半導体需要拡大が業績をけん引、能力増強投資に伴う経費増も拡販で吸収し、中期的な業績成長が見込める銘柄。

<4970 東洋合成 業績:単独>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	24,455 ( 6)	2,184 ( 40)	2,061 ( 32)	1,852 ( 58)	233.4	20.00
21.3	27,164 ( 11)	2,939 ( 35)	2,982 ( 45)	2,345 ( 27)	295.6	20.00
22.3 予	30,000 ( -)	3,550 ( 21)	3,400 ( 14)	2,400 ( 2)	302.4	30.00

(注)22.3期より「収益認識に関する会計基準」を適用するため、売上高の伸び率は「-」表示



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/6/4)	12,070 円
年初来高値(高値日)	14,770 円 (21/1/13)
同 安値(安値日)	10,000 円 (21/5/19)
予想 P E R (22.3 予)	39.9 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,611.4 円
P B R	7.49 倍
予想配当利回り	0.25 %
(1株当たり配当金年30.00円)	
R O E (21.3)	20.1 %
発行済み株式数	814 万株